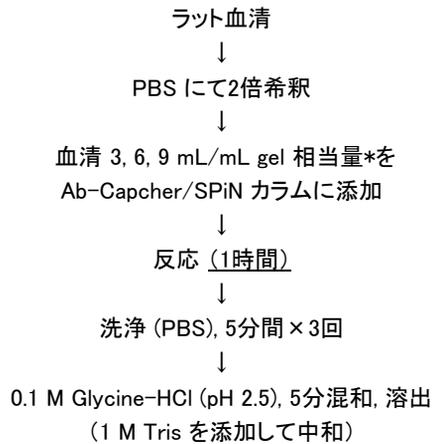
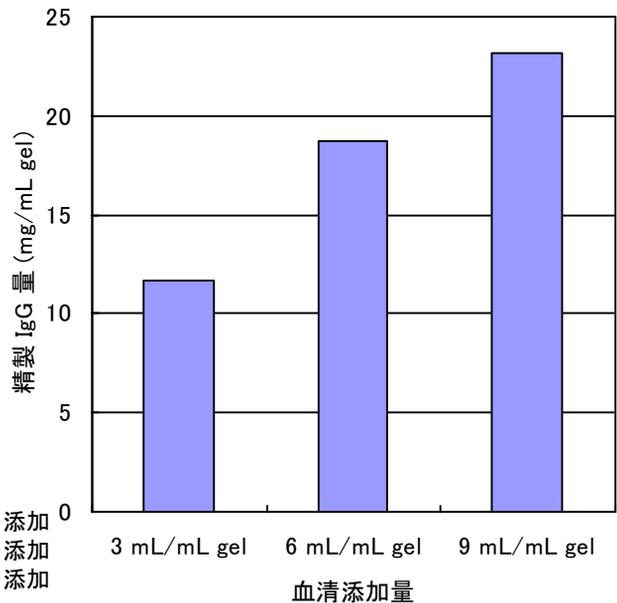


Ab-Rapid SPiN™ を用いた ラット血清からのIgG精製

操作の流れ



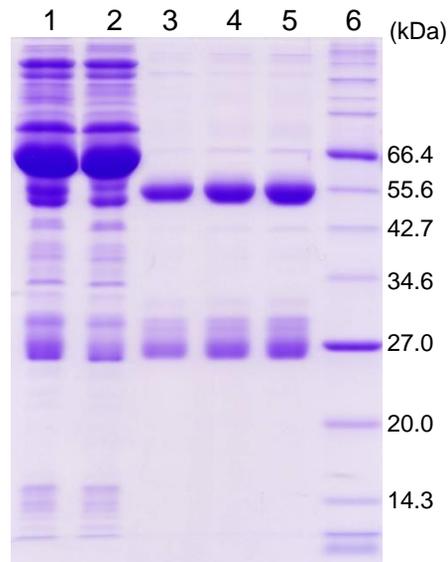
*3 mL/mL gel: 100 μ L gel に 2 倍希釈血清 0.6 mL を添加
 6 mL/mL gel: 50 μ L gel に 2 倍希釈血清 0.6 mL を添加
 9 mL/mL gel: 50 μ L gel に 2 倍希釈血清 0.9 mL を添加



電気泳動結果

SDS-PAGE
 ゲル: 12.5% (Tris-Glycine)
 染色: CBB

レーン 1: Serum
 レーン 2: Flow through
 レーン 3: 3 mL/mL gel_Eluate
 レーン 4: 6 mL/mL gel_Eluate
 レーン 5: 9 mL/mL gel_Eluate
 レーン 6: MW marker



ラット血清から Ab-Rapid SPiN を用いて IgG 精製を実施した。初期の検討でラット (Wister) 血清中の IgG 含量が低かったことから、老齢ラットからの血清を使用した。ゲル担体あたり 3 mL/mL で 11.7 mg IgG/mL gel を精製したが、血清中 IgG 含量が低い可能性があったことから、添加血清を増量して試験した。その結果、処理血清量に比例して IgG 精製量が増加した。3 mL/mL gel の精製量 11.7 mg/mL が 100% の血清含量とすると 6 mg/mL では 23.4 mg/mL から 18.8 mg/mL (80.3%) が、9 mg/mL では 35.1 mg/mL から 23.2 mg/mL (66.1%) がそれぞれ精製できたことになる。これらの結果から、Ab-Rapid SPiN はラット血清から少なくとも 20 mg/mL の IgG を精製できることがわかった。SDS-PAGE の結果から、Ab-Rapid SPiN にてワンステップで精製したラット IgG の精製純度は良好であった。以上の結果から、Ab-Rapid SPiN を用いて他の動物血清とほぼ同様の純度と収量でラット血清から IgG 精製が可能であることがわかった (appli.data No.21 参照)。